

市民eyesは市民目線、市民感覚を大切にしながら、四日市をより良くしていこうという思いで結成しました。市民の声を拾い、想像し、それを政策的に高めて、市政運営に繋げていくという考えを念頭に置いて活動しています。

裏面
コロナ対策
について



代表 小林 博次

副代表 土井 数馬

伊藤 昌志

「テクノロジーの進歩」「人々の価値観」AI(人工知能)をはじめとする新たな技術革新により第四次産業革命とも言われる現代を迎えています。今ある仕事はどんどんAIに奪われ、どのように仕事環境が変わっていくのでしょうか。そこでこれからの仕事の在り方、働き方を考え、第一次産業(農業等)の新たな価値観を見出すなど、人々の価値観というものをしっかりと踏まえた上での「地域社会づくり」を提案していきます。

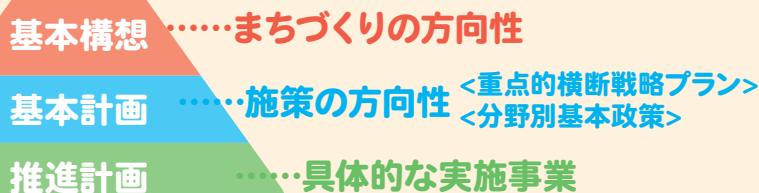
そしてこの四日市の未来に向けて。我が四日市には伊勢湾があり鈴鹿山脈があります。産業が発展し、自然も豊かなこのまちは、三重県北勢地域における中核都市として活躍しています。今後も、近隣他市との地域連携を大切に、人、モノが発展し、自然との共生により、安心して心も豊かに育まれる、人類が未来永劫、平和に暮らし続けていくためのモデルとなるような地域づくりを目指していこうではありませんか。

常に、市民目線、市民感覚を大切に、市民の皆さんに、今、市政がどうあるのか、議員が何をしているのか、正しい情報発信を心がけてまいります。私たち市民で我がまちの未来を創っていきましょう。

市民eyes 代表 小林博次 副代表 土井数馬 伊藤昌志

新総合計画 令和2年4月スタート

基本構想・基本計画・推進計画の3層構成



基本構想 四日市未来ビジョン

- 1 子育て・教育安心都市
充実した人生を歩むための
基礎を育み、誰もが輝ける
- 2 産業・交流拠点都市
東海地域をリードし、地域社会
のイノベーションを誘発する
- 3 環境・防災先進都市
まちの未来を守り、
将来の市民にバトンをつなぐ
- 4 健康・生活充実都市
四日市に集まる人々の力を、
まちづくりの原動力にする

基本計画 重点的横断戦略プラン・分野別基本政策

重点的横断戦略プラン

- 子育てするなら
四日市プラス
子どもと家族を
社会で支える取組
- リージョン・コア
YOKKAICHI
都市機能と魅力を高め、
活力あふれる都市を
創る取組
- 善くわくわく!
四日市生活
健康で豊かに暮らせる
社会を築く取組

分野別基本政策

- まちづくりの8分野
1. 子育て・教育
 2. 文化・スポーツ・観光
 3. 産業・港湾
 4. 交通・にぎわい
 5. 環境・景観
 6. 防災・消防
 7. 生活・居住
 8. 健康・福祉・医療
- 都市経営の土台・共通課題

定例月議会

私たちは、年4回開かれる定例月議会で、多岐にわたる質問・提案をしています。

詳しくは、
四日市市議会ホームページの
「インターネット会議中継」より
ご覧いただけます。



会派市民eyesの
ホームページでも
様々な活動の様子を
掲載しております。



令和元年度 会派視察



図書館事業

神奈川県海老名市 中央図書館

令和元年7月25日

神奈川県海老名市「図書館事業」の視察に行きました。同市の中央図書館は、指定管理者制度で民間委託されており、非常に市民満足度の高い図書館となっています。この図書館の特色として、民間書店の併設により本や物販商品の購入が可能であったり、館内には民間のカフェも併設され、コーヒーを飲みながら本を読むこともできます。本市でも、新図書館の議論が長く続いています。今の時代に合わせ、将来も見据えた場所、設備、事業内容にしなければなりません。

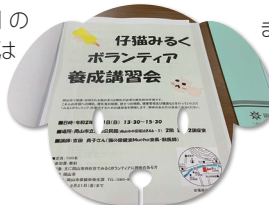


動物愛護事業

岡山県岡山市 動物愛護センター

令和2年1月16日

岡山県岡山市「動物愛護事業」の視察に行きました。同市では「動物愛護ボランティアとの協働による殺処分減少に向けた取り組み」が環境省より好事例として取り上げられました。



また同市には、保護犬を展示し無償譲渡しているペットショップもあります(ペットは販売せず、グッズ販売のみのお店)。人も動物も安心して暮らせるまちづくりを考えていかなければなりません。



空き家対策事業

広島県尾道市 空き家再生プロジェクト

令和2年1月17日

広島県尾道市「空き家対策事業」の視察に行きました。この事業はNPO法人が事務局となり、同市の特色を生かした空き家再生プロジェクトを推進しています。地の利を生かした様々な方策、NPOの活用、条例化など、今回の情報を踏まえ、四日市の未来を見据えた政策を提言していきます。



また、尾道は野良猫が沢山いるまちです。空き時間で多くの野良猫たちが住んでいる千光寺公園を訪れました。動物との共生を改めて考える機会にも恵まれました。

